



## 放流から13年ぶりに保護されたアカウミガメ

飼育展示第一課 齋藤 知己

水族館などで飼育されている生物は、概して自然下で育ったものと比べて成長が早いとか、太り気味だとか言われますが、実際はどうだろうか?と常々考えていたところ、この疑問にヒントを与えてくれる事が起こりました。

2011年9月、長崎県対馬市美津島漁協尾崎支所の定置網にアカウミガメのメスが迷入し、前肢につけられていた標識から、名古屋港水族館が1996年にふ化させ、2年後に愛知県田原市の赤羽根海岸から放流したカメであることが分かりました。名古屋港水族館では、現在までに5,000匹近くもアカウミガメの子ガメを放流してきましたが、これほど時間が経ってから保護されたのは初めてのことで、世界的にも例がありません。

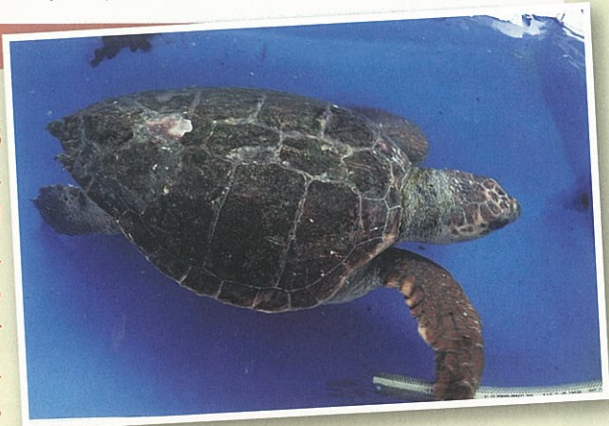
このカメは放流時、2歳で甲長39.9cm、

放流地点(渥美半島赤羽根海岸)と保護地点(対馬市美津島町尾崎)



体重12.4kgでしたが13年経ち、15歳で甲長70.6cm、体重54.8kgに成長していました。しかし、これは飼育下では4歳齢で達する大きさに過ぎません。意外なまでに成長の遅い事から、自然界で生きぬくのがいかに厳しいかという事が伺えました。また、このカメは尾が短い点からメスと分かりました。しかし保護直後の血中中性ホルモン濃度を測定したところ、成熟メスより低く、さらにエコー(超音波画像診断装置)を用いて卵巣の成熟度を診断したところ、直径1cm程度の卵胞が確認されたのみで、未成熟と考えられました。名古屋港水族館では飼育下で育成したメスが13歳で産卵した事がありますが、このカメが産卵できるようになるのはまだまだ先と思われる。

一方、このカメは、赤血球数、ヘマトクリット、ヘモグロビン濃度などが飼育個体に比べて高いことが分かりました。これらは潜水能力の高さを示すもので、自然下では深所にも潜水していたことが伺えました。



対馬市美津島漁協尾崎支所の水槽に保護されたアカウミガメ。

たとえて言えば、酸素の薄い高地でトレーニングしたマラソン選手のようなものです。

さて、このカメは今後、送信機を装着して再放流し、どこを回遊するのか、いつ頃砂浜に上陸して産卵するようになるのかなど、調べてみたいと考えています。



左前肢に残っていたチタン製の標識。表には標識番号'2737'、裏には'RETURN NAGOYA PUBLIC AQUARIUM JAPAN'と刻まれています。

## わたしのスケッチブック

### アオウミウシ

アオウミウシは水中で比較的見つけやすく、水中写真の好きな私にとってとても有難い被写体です。向きは?ズームは?絞り?光の強さは?いつも試行錯誤します。そんな私が海の生き物に強く興味をもつようになったのも、ウミウシの存在があったからでした。豊かな色彩とゆったりとした動きがとても魅力的です。



飼育展示第二課 原 功次郎